日刊 動労千葉
80.11.7
No. 576
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二三五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

81.3ジェット決戦勝利の展望をきり拓いた10月総決起

総括

10月総決起の成果をうち固め、更に前進しよう！

乗務員運用合理化阻止！八一年三月ジェット燃料貨車輸送延長阻止！を合言葉にした猛然たる十月総決起の闘いは、かつてなく高揚し闘う動労千葉の底力を発揮した。全組合員の十月総決起に発揮された力は、権力・国鉄当局・動労「本部」反動分子を震撼せしめ、乗務員運用合理化十一月一日強行策動を阻止した。しかも、乗務員運用合理化攻撃と軌を一つにした「本部」反動分子による一〇・二七銚子支部分裂破壊策動をも粉砕した。この二つの勝利こそ動労千葉一四〇〇組合員が〝前門の虎〟国鉄当局と〝後門の狼〟「本部」反動分子を二重の敵としてはっきり見すえ、国鉄35万人体制粉砕と結合した三里塚・ジェット闘争貫徹の闘う路線の正しさ＝勝利として実現されたものである。

10月総決起のかちとった地平

われわれは、81.3ジェット決戦勝利へむけた闘う陣型を形成するために、そして何よりも当面する乗務員運用合理化粉砕のためにも、全組合員一丸となってきりひらいた「10月総決起」の偉大な勝利・成果・高揚をひきつづき持続させ発揮させねばならない。

動労千葉「10月総決起」勝利の意味は、きわめて重要である。

第一に、権力・当局・「本部」反動分子の一体化した動労千葉破壊攻撃を粉砕し、10月総決起を三里塚＝反合闘争として敢然とうちぬき、10.10→10.19→10.21→10.31と首都東京へのべ一〇〇〇名の組合員の決起をかちとった。そして動労千葉が81.3ジェット決戦に組織の真価をかけて闘うことを満天下に表明し、闘う労働者・農民・学生・市民を限りなく鼓舞激励し、もって81年3月三里塚決戦の闘う陣型を強固に形成したのである。

第二に、10月総決起は動労四万六千組合員はもとより、全国の闘う労働者の前に、誰が真に国鉄労働運動を担う者であるか、誰が国鉄労働者の利益を代表するものであるかを鮮明にしたことである。

それは首都圏乗務員運用合理化をめぐる攻防戦の中にハッキリと示されている。

「本部」反動分子は、東京三局「九月裏切り妥結」をもって国鉄35万人体制の突破口としてある乗務員運用合理化の先兵となり、こともあろうに「千葉も必ず11月1日に実施させよ」と当局の尻を叩くという腐敗した姿をさらけ出してきた。これに対しわが動労千葉は真向から対決し10.10集会以来の連続決起の高揚と固く結合し、東中野事故を契機とする国労共闘による反合・運転保安闘争を闘い、職場生産点からの不屈の反撃をもってこの攻撃を粉砕してきた。

銚子支部組織破壊攻撃に痛打！

第三に、「本部」反動分子による10月の最大の動労千葉破壊攻撃としてあった10.27「本部」派銚子支部デッチ上げ策動を粉砕したことである。今日に至るも「本部」＝三信ビルの革マル分子諸方らは、動労千葉のあまりにもすさまじい反撃力に驚愕し、ここ銚子における破産的事態に関して一切沈黙をきめこんでいる。

当局に労働者の利益を売り渡し、動労の戦闘的伝統を変質させる「本部」反動分子は一刻も早く国鉄労働運動から追放しなければならない。自らの裏切りを満天下にあばき出され顔面そう白で当局にあたり散し立きっている「本部」反動分子の敵対を粉砕し、運用合理化粉砕・81.3ジェット決戦勝利にむけ更に前進しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！